



青き楓

島高だより
平成 20 年度 11 月号
(通巻第 32 号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「大学入試・2007年問題」

校長 辰田幸敏



数年前、大学や受験関係者の間で「2007年問題」という言葉が流行した。受験生は大学を選びさえしなければ、平成19年入試では全員どこかの大学に入学できる。つまり、受験人口と大学の合格者定員がほぼ同じになるというのである。それだけにこの10年ぐらゐ、大学側は学部再編や新設、入学者選抜方法の改善など様々な改革を行ってきた。私立大の志願者数ベスト20校の志願者合計とベスト3校を、18歳人口ピーク時の平成4年度を基に19年度と比較すると、次のとおりである。

*H19年度 1,251,621 (①早稲田大 125,647 ②明治大 102,451 ③関西大 101,451)

*H4年度 1,469,294 (①早稲田大 157,847 ②日本大 147,887 ③明治大 105,099)

4年度の私立大志願者総数は約445万人、大学数が507校、19年度は約302万人、580校であり、この15年間で私立大は73校増えたが、志願者総数は143万人も減少している。逆に20校へ志願占有率は33.0%から19年度は41.4%と上昇しており、一部有名私立大へ志願者が集まるなど大学間格差が見られる。有名私立大入試が依然として厳しい理由はここにある。

このような中で、近年定員割れで募集停止や破綻した大学・短大等が出てきている。今や人気と伝統を誇る有名私立大も勝ち残りをめざして受験生と学生確保のため、きびしくはげしい競争を展開している。

第2回「島高青楓塾」& 授業公開 教頭 吉田 寿



11月14日(金)、本年度2回目の「島高青楓塾」が本校体育館青楓アリーナで行われました。本校19回生で財団法人日本ばら会理事、石黒音楽学院主宰の石黒秀子先生に「音楽と薔薇から学んだ日々ー未来に向かってー」という演題でご講演をたまわりました。石黒先生はご自身が主宰する石黒音楽学院で若い音楽家たちの教育に当たられるかわら、薔薇の研究者としてもご活躍中で、国際的なコンテストで大賞を4回も受賞していらっしゃいます。ステージの上には色も形も香りもとりどりの薔薇があふれ、華やかな雰囲気の中、スライドを使ったり、生徒に実演をさせたり、聴衆をあきさせない工夫を凝らして、肩肘のはらない親しみやすい講演でした。「桜や梅が出てくる校歌はあるが、『ばら色の』で始まる校歌は他に例がない。知性や品格を感じさせる。人生には時に茨(いばら)の道もあるが、ばら色の人生めざして努力してください。」と生徒を激励してくださいました。

また、当日は授業公開も実施しました。授業公開および青楓塾に多数参加していただき、ありがとうございました。

なお、石黒秀子先生から後輩のために御厚志をいただきました。先輩の期待に応えられるよう有効に活用していきたいと思ひます。

理科の活動 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

1年7組担任 吉永真二

理科科1年生はSPP講座型学習活動を10月21日(火)と11月7日(金)に実施しました。第1回のSPPでは有家川の水質調査を、第2回では島原の環境(特に水)について学習しました。有家川の実習では、長崎市役所の小川保徳先生を講師に迎え、実際に川の中に入り水生生物を採取し水質の判定を行いました。フィールドワークの大切さと面白さを実感できました。第2回目では県南保健所の原田俊介先生に島原の環境についての講義をしていただきました。水処島原の水が年々汚染されている現状を聞いて、その要因の1つとして家庭から出る排水があげられ、できるだけ汚れを出さない努力をすることが大切だということを再認識しました。どちらの研修も生徒にとって興味深く有意義な研修となりました。

【生徒の感想】

- 水生生物を川に入って採ったことがなくその生物によって川の汚れが判定できることも知りませんでした。とてもいい経験になりました。
- テレビで見たウズムシを採りたいと思っていました。実際にとることができてうれしかったです。機会があれば、またしてみたいと思います。
- 水質調査は簡単にできるものなんだなあと思いました。水生生物による川の汚染度の調査結果と化学的な測定結果とがほとんど変わらないことを聞いて驚きました。
- 指標生物の中で見たことのない生物までとても興味深く調査することができました。
- 自分自身が環境と深く関わっていたことに驚いた。何気なく流していた排水が環境を破壊していると知り、少しでも環境に配慮して生活していきたい。
- 島原半島の地下水は窒素酸化物が多いことに驚きました。できるだけ窒素酸化物が少なくなるよう何かできることを探してみようと思いました。



早く
交替してくれ



学校に戻り、
採取してきた生物を顕微鏡で観察

人権同和教育

研修部 豊 正路

「長崎県同和問題啓発強調月間(11月11日から12月10日)」の初日にあたる11月11日(火)、本校体育館にて、「人権同和教育」の一環として「壁のないまち」のビデオ上映を行いました。現代社会の中で、障害をもつ人々が日常生活を不自由に感じ、人間としての尊厳を損なうような状況が生じるのはどうしてか、どうすれば障害の有無にかかわらず誰もが元気に暮らせるユニバーサル社会を築くことができるか、自身の生き方と照らし合わせて考える小さな機会になれたのではと思ひます。

【生徒の感想】

- 障害のある人を特別視するのではなく、一人の人間として困っていたら助け支える、というあたり前のことを実行したい。(1年男子)
- 生活者の利便性を追求し、バリアフリー化などを推し進めることに加えて、もっと人と人の対話やつながりを大切にできる心を持つことだと思ふ。(2年男子)
- 自転車の駐輪の仕方や走行マナーなど、歩行者や障害をもつ人の立場に立って、身近にできることから心を配りたい。(3年女子)

弓道部女子

主将 上田早紀

こんにちは、弓道部女子です。私たちは10月18日、19日に行なわれた県新人戦に出場しました。予選を2位で通過し、上位5チームの総当たりによる決勝リーグでは個々が力を出しきり、見事全勝で優勝することができました。女子の県レベルの大会での優勝は数年ぶりです。選手はもちろんです、弓道部全体の志気がぐっと高まったように感じました。これからも普段からご指導くださる先生方や支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、自己と向き合い、一射一射を大切に頑張っていきたいと思っております。応援ありがとうございました。



弓道部男子

主将 鎌 和希

今回の優勝は僕達が入部してから初めての県制覇で今までの努力がやっと実った勝利でした。勝因としては島原での戦いということもあり、応援・選手・先生が今までにないくらい団結力を見せてチームが一つになったことにあります。しかし、僕達の目標は来年の県高総体で優勝することです。今回の勝利を自信にして全員で目標達成のためにがんばります。そして、伝統ある名門島原高校弓道部を復活させたいと思っております。応援ありがとうございました。



ソフトテニス部男子

主将 本田 雄大

僕達は十月に行われた県新人戦で三連覇を成し遂げました。シードの為一回戦は無く、二回戦は鹿町工業に3-0、三回戦から決勝戦までは、ほとんど力の差は無く拮抗した試合ばかりで、大村工業、島原工業、長崎南山、長崎北陽台に全て2-1というギリギリの試合ばかりでした。応援して下さった方々に感謝の気持ちで一杯です。これからも感謝の気持ち、挑戦者の気持ちを忘れず、高総体優勝を目指し、チーム一丸となり頑張ります。



剣道部男子

主将 大坪学嗣

今回の新人戦では、男子団体戦優勝、女子団体戦第二位、男女個人上位入賞をすることができました。決勝は中地区大会に続き西陵との対戦となり、一人が引き分け、二人が勝って西陵を下し、団体六連覇を果たしました。このような結果を残すことができたのも、保護者の方々、そして地域の方々の御声援があったことと、とても感謝しています。今回の結果に満足せずさらに精進していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

レスリング部

主将 村上貴之

今回の新人戦は、団体戦を制し、三連覇することができました。個人戦は八階級中六階級優勝しました。たくさんの方の支えを受け、このような結果を残せました。応援ありがとうございました。結果的に勝つことができたものの、まだあまい部分も多くありました。今後、九州、選抜大会とつながって行きます。さらに練習を積み、いい結果を残していけるように頑張っていきたいと思います。応援よろしくお願ひします。

部活動の主な成績 (右記以外)

○ソフトテニス部

県高等学校新人体育大会 ソフトテニス競技(10/19)
男子団体 **優勝** 男子個人 第3位 森崎・平川組
第34回全日本高等学校選抜大会長崎県予選会(11/1)
男子団体 第3位 女子団体 第3位

○弓道部

県高等学校新人体育大会 弓道競技(10/19)
男子団体・女子団体 **優勝** 男子個人 第3位 中村 圭祐

○体操部

県高等学校新人体育大会 体操競技(11/9) 女子団体総合 準優勝

○レスリング部

県高等学校新人体育大会 レスリング競技(11/9) 団体 **優勝**
個人戦 **優勝** 吉田 拓郎(50kg級) 伊藤 駿(55kg級) 松本 喜朗(66kg級)
村上 貴之(74kg級) 松尾 耕大(84kg級) 馬場 貴大(96kg級)
準優勝 平山 健斗(84kg級)
第3位 柳堂 應基(50kg級) 堀内 郁実(55kg級) 草野 隆大(66kg級)

○剣道部

県高等学校新人体育大会 剣道競技(11/16) 男子団体 **優勝** 女子団体 準優勝
個人男子 **優勝** 大坪 学嗣 準優勝 入江 洋平
個人女子 準優勝 小森田 渚 第3位 平石ゆい子

○文芸部

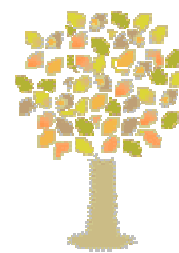
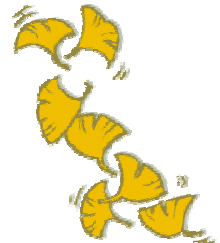
県高等学校文芸コンクール(10/19) 詩部門 **最優秀賞** 池田加奈子
(全国高総文祭みえ'09 出場)

○写真部

県高等学校総合文化祭県央支部合同写真展(11/9)
優秀賞 田浦 菜弥 優良賞 松本 麻綾

○放送部

第30回九州高校放送コンテスト長崎県大会(11/16) 朗読部門 **優秀賞** 吉田桃子
(九州高校放送コンテスト出場・全国高総文祭みえ'09 出場)



★第32回全九州高等学校音楽コンクール ピアノ部門 金賞

合唱部 前田ゆりの

今回の金賞受賞をとても嬉しく思います。幼い頃からピアノを弾くときには、単なる音の羅列にならず、そのフレーズに最適な音色を出すこと、作曲家の意図を読み取り'自分ならではの表現'が表出できるようにすることを心掛けてきました。今回の受賞を機に、さらに自分の音楽性を高め、私の奏でたい音楽で、それを聴かれた人たちの心が少しでも和むように、これからも努力していきたいと思っております。



★第23回全九州高等学校 囲碁選手権大会 男子団体 第3位

「囲碁の魅力」

囲碁愛好会代表 高原一寿

現代日本では人間の脳はあまり使われていないように思われる。事にあたって真剣に考え、悩むことを避けているようだ。携帯電話やパソコンの普及で簡単に情報が手に入り、事をすましていく。

囲碁の魅力は「三手の読み」にありといわれている。わずか三手先の最善手を発見するために、脳がすり切れるほど考えさせられるゲームである。半目を争う陣取り合戦ではあるが、逆境に立たされた時に耐えて、きらりと光る妙手を発見し、苦境をしのいだ時の喜びは何に例えようもない。悩む力も養われ、人生の大きな糧になるであろう。専属の部活動に入部している人も気軽に囲碁を楽しんでいただければ幸いである。



11月～12月の主な行事予定

【11月】

29日(土) 土曜講座(全学年)

【12月】

1日(月)～5日(金) 修学旅行(2年)

2日(火)～5日(金) 期末考査(1年)

6日(土)～7日(日) 対外模試(3年)

11日(木)～19日(金) 三者面談期間(3年)

13日(土) 土曜講座(全学年)

20日(土) 県下一斉実力模試(1・2年)

22日(月)～26(金) 三者面談期間(1・2年)

24日(水) 終業式・3年生激励会

25日(木)～26日(金) 授業設定日

25日(木) 保育園訪問実習(1年希望者)

27日(土)～28日(日) 冬季補習(全学年)

29日(月)～30日(火) 代ゼミプレテスト

(3年)

